

学校法人中村学園
中村学園大学短期大学部
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

中村学園大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 中村学園
理事長名	中村 量一
学長名	藤本 淳
ALO	小田 隆弘
開設年月日	昭和32年4月1日
所在地	福岡県福岡市城南区別府5-7-1

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
食物栄養学科		150
キャリア開発学科		150
幼児保育学科		190
	合計	490

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

中村学園大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 20 年 7 月 9 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

建学の精神から導き出される教育理念、教育目標は、実学教育を根底にしている。この伝統と実績のある食物栄養学科、幼児保育学科及び現代社会の多様化に対応できる新学科キャリア開発学科の教育支援・教育成果が十分に実っている。各学科には資格取得支援のための教育課程が充実し、定員充足率、専門就職率共に高い。

新入生には学生便覧・シラバス記載のほかに「N GUIDE」により学生生活の指針、学生支援体制が理解しやすく冊子として準備されている。また学生支援、教育効果を高める支援体制は各委員会が設置され、理事長・学長のリーダーシップにより教職員が一体化した体制で実施している。自己点検・評価が常に実施され、改善意欲も高く、施設改善、教育内容の検討が実を結び、学科改編に結びつくなど改善効果を高めている。

図書館開放など地域に根差した大学教育と責任と存在感は十分に発揮されている。

教育成果の指標となる就職は、資格を生かした専門就職率が高い。また、教員の研究活動も活発に行われている。入学者の定員確保も十分であるが、教育環境など学生に不利益な状況になることが危惧されるのでキャリア開発学科については、定員遵守に努力されることが望まれる。

教職員一体化のファカルティ・ディベロップメント（FD）活動も進化しながら展開され改善・改革への意欲は十分である。また、事務職員の資質向上のための教育への理解と支援があり、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動の規程も整備され、組織化されている。

学生生活の支援体制は平成 20 年に開設された学生支援センターの有機的支援が期待される。特筆すべきは学生相談室の専門員、図書館司書等事務職員の専門性が高く、業務実施精度も高いと推測できる。自己点検・評価への真摯な取り組み体制も十分に施設設備の充実と管理体制も万全である。

地域に根差した高等教育機関として当該短期大学の運営が展開されている。大学との共用施設、事務組織など有機的に運営されている。資格取得教育、教員のオフィス・

アワーの設置、指導主任制による学生の相談・指導による人間教育、地域に根差した専門就職など優れた教育が展開されている。経営の基盤となる学生定員も安定確保され、財政的にも安定した万全な教育環境が整えられ効果的に展開されている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念から導き出された学科別の教育目標に基づいて「アドミッション・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「ディプロマ・ポリシー」が学生に理解されやすく「N GUIDE」に明確に示されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 全学的及び学科ごとの組織的な FD 活動による授業改善の取り組みをはじめ、非常勤講師を含む関係教員の会合による教科ごとの調整や、学生の意見も協議する FD フォーラムの開催などにより、きめ細かな授業改善が進められており、3 学科とも継続的に教育課程の見直しに取り組んでいる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館は、専門書や研究・学習資料の活用度を高めるために、平日は午後 10 時まで、休業日も午後 4 時まで開館時間枠が拡げられ、学内関係者及び卒業生や地域市民の利用の幅も拡がり、地域の文化振興基盤として生涯学習の支援に貢献している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- キャリア開発学科においては、秘書検定 2 級・日商簿記 3 級・日商 PC 検定(文書作成)の 3 資格取得を支援する「キャリアサポート講座」の開設の効果が著しく、3 ヶ年の受講者、取得者数も年々増加している。

- 卒業学科の教育特色と資格を生かした専門職への高い就職率は、実学教育を目標とする当該短期大学として達成度を示すものであり、各学科とも専門分野の人材育成に大きく貢献している。キャリア開発学科では、就職者の全員がビジネス業界に就職し就職率は98.0パーセントである。幼児保育学科では、就職率は99.5パーセント中、幼稚園教諭2種免許状と保育士資格を生かした専門職率が95.0パーセントなど優れた教育体制となっている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 進路支援に関して、高い就職率を支えている学生支援センターなど教職員の支援体制、特に個別のニーズが適確に把握され、最新情報が様々なツールを駆使して提供されている。また、遠方での就職活動を行う学生の旅費支援制度も学生への配慮された取り組みである。
- 短期大学のクラブ参加者が全学生の約半数であり、特に体育系では全国レベル等での活躍も著しい。

評価領域Ⅵ 研究

- 平成20年度には全教員の大半が科学研究費補助金の申請を行い、採択数も増加傾向にあるなど、教員の研究に対するインセンティブを高める工夫がなされており、教員の研究活動の奨励策として、研究費配分に成果主義的な要素が盛り込まれ、研究意欲を促している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 大学職員をアドミニストレーターとして育てる努力と共に、理事長と学長による毎月2回の全教職員の朝礼や理事長と全教員との昼食会を通じて、トップとのコミュニケーションによる改革を推進している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 成績評価で優や可の割合が突出した科目があるので、成績評価の在り方について、FD等で検討することが望まれる。
- 各学科において、クラスの人数が多い科目がかなりみられるので、1クラスの少人数化が望まれる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- キャリア開発学科の収容定員超過の状況を改善し、適切な教育環境の保全に留意

されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神は創設者の教育理念を基に昭和49年に成文化された。教育の根底を実践教育とし「人間教育の根幹」「教育実践の基底」「教育研究の基本」の三つの柱で一体感のある学園の教育活動全般の基盤として明確に示されている。

創設者の遺訓「努力の上に花が咲く」と共に建学の精神・教育理念から導き出される教育目標は各学科構成に従って食物栄養学科「体づくり」、キャリア開発学科「人材づくり」、幼児保育学科「人づくり」を目指した実学教育に重点をおいて学科別に「教育目標」「アドミッション・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「ディプロマ・ポリシー」として明示され必要に応じて学科会議などで点検、見直しも行われている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

社会の変化に即応した実学教育の専門知識・技術の修得と、人間性の涵養と国際化・情報化への対応力を培う現代的教養の練磨を目指すとともに、種々の免許資格に対する学生の多様な関心と能力育成にこたえる教育課程が適切に編成されており、履修意欲の向上のためにシラバスによる科目情報の明解な開示を図る一方、教務委員・科目教員による履修指導がきめ細かく実施されている。また、学生の要望を聴取する授業アンケートの定期的な実施や、学科単位の組織的なFD研修、授業担当者間の情報交換と調整、兼任教員・非常勤講師との話し合い等、様々な授業改善の取り組みが意欲的に試みられている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

各学科の専任教員及び教授は短期大学設置基準の規定数を満たし、短期大学教員にふさわしい資格と資質を有している。専任教員の平均年齢は50歳強であるが、おおむね年齢バランスは取れている。助手・副手数も十分である。

校地・校舎は短期大学設置基準の規定面積を充足し、講義室・演習室等も教育環境として適切に整備・活用されている。情報機器や授業用備品の整備システムも確立されている。運動場は拡張整備中で、体育館は十分に整備されている。

図書館の利用環境も整っている。専門的かつ時宜的な資料収集が図られ、授業関連資料はシラバスに照らし毎年充当されている。電子端末機での学内外資料の検索によって情報収集の迅速化・利便化も講じられ、図書館ツアー等によって情報リテラシーの向上にも取り組まれている。平日・休日の開館時間延長や、他大学図書館等との業務協力により利用の広域化を進め、夏季地域開放、市民貸出等により地域の文化拠点としての役割も果たしている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定はシラバス明示の方法により適切に行われている。

過去3ヶ年の退学者数は入学者数に対して数パーセントであり妥当な範囲である。また、学生に対するケアはクラス別指導主任を中心に学習指導・生活指導に加え学生相談室等で対応している。資格取得についても各学科において十分な資格取得の機会が準備されている。

就職先、編入先からの卒業生、編入生の評価については調査を行っていないが、設置する各学科の専門就職への割合は高く、卒業生へのアンケート、卒業後、ゲストスピーカーとして招へいし講演会を行う等、取り組みは行われている。

評価領域Ⅴ 学生支援

建学の精神、教育理念、教育目的・教育目標、望ましい学生像等が短期大学案内に明示されている。入試募集要項には入学者選抜の方針・各選考の概要が示され、多様な選抜方法として、推薦入学選考（公募制、併設校制、指定校制）、試験入学選考、外国人留学生特別入学試験、社会人特別入学試験など、選考ごとに出願資格、選考方法などの詳細が掲載されている。入学試験に関する業務全般及び学生募集に関する業務全般を遂行する部署として入試課を設置し、10人の職員が年間を通じて受験生の対応を行うなど十分な体制が整備され、受験生に対する適切な対応が行われている。

入学手続き者に対し、学長メッセージ、建学の精神などが明記された小冊子「入学手続きについて」、さらに入学までの期間を有意義に過ごすための留意事項と課題を郵送し、入学までに授業や学生生活についての情報を丁寧に提供している。

学習支援、学生生活の支援体制は専門性の高い学生相談室の専門員や事務職員が当たり、業務実施精度も高いと推測できる。進路支援に関して、高い就職率を支えている学生支援センターなど教職員の支援体制、特に個別のニーズが適確に把握され、最新

情報が様々なツールを駆使して提供されている。また、遠方での就職活動を行う学生に旅費支援制度も行われている。

評価領域Ⅵ 研究

食物栄養学科、キャリア開発学科、幼児保育学科共に、若手教員の積極的な研究姿勢が著作数、論文数、学会発表数及び国際的・社会的活動保有率からみて取れる。文部科学省科学研究費補助金の申請を全教員に義務付ける方針と、若手教員のための「プロジェクト研究」推奨のシステムが用意され、教員の研究への志向性は高い。研究成果の発表の受け皿も学内に整えられている。

食物栄養学科の教員の学会発表率が突出して高いことは、併設大学栄養科学部との合同研究大会の開催が理由だと推察されるが、同時に当該短期大学がその歴史を通じて、特に食物栄養の分野で地域社会に貢献し、評価されてきたことの表れである。

評価領域Ⅶ 社会的活動

当該短期大学としての社会的活動、社会人学生の受け入れ、学生の社会的活動の支援、国際交流等、ほぼすべての分野において基礎的な活動がみられる。社会的活動に対する学内の位置付けを明確化するなど、取り組むべき課題がいくつかある。地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体との効果的な交流に関してはいささか低調の感を否めない。

しかしながら、九州という土地の特性を考慮した中国からの留学生受け入れ、当該学園の基盤である食物栄養分野においての地域貢献、優秀な学生を地元企業に就職させることを地域貢献と位置付けて推進している点など、積極的に評価できる活動も多い。また、公開講座を一般市民向けと卒業生のブラッシュアップ講座に分けて実施するなどきめ細かい事業もみられ、全体として基準を満たしている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は学園最高責任者として学長と連携し、現状の課題解決から将来計画に至るまで様々な視点から運営判断を行っている。監事については規程を制定し、業務監査及び会計監査を適切に行っている。また、理事会及び評議員会に積極的に出席している。学校法人の管理運営体制は確立されており適正に運営されている。

学長は各委員会、学科会議、審議会、教授会と教育研究においての意見が各会議で議論できる体制を確立している。また、将来検討委員会を立ち上げるなど、教育研究における運営体制が確立されている。

事務部門について、適切に規程が整備され業務執行体制及び人事管理体制も整っている。また、危機管理についても十分な配慮がなされ、事務組織は整備され適切に業務執行がなされている。

評価領域Ⅸ 財務

財務運営について、予算の編成体制は確立しており、毎年度の事業計画、予算及び決算は理事会において厳正に審議されている。また、日常的な予算執行についても規程に基づき適切に処理されている。

財務体質について過去 3 ヶ年の学校法人全体及び短期大学部門の財政状況は健全に推移しており、資金及び資産の維持管理も十分である。また将来を見据えた 5 ヶ年中期総合計画も策定されている。

施設設備管理について、固定資産、施設設備、図書館、消耗品及び貯蔵物等、規程に基づいて適切に管理されている。火災、防犯、コンピュータ・セキュリティ等についても対策がとられており、省エネルギー・省資源対策についても積極的に取り組んでいる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

改革・改善については、自己点検・評価委員会と FD 推進委員会を統合した FD 委員会を設置し、委員会規程を定め実施体制を確立している。

自己点検・評価は学則に示され、当該短期大学の教育研究の目的を達成するための重要事項として、「教育・研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する」さらに「点検及び評価結果については、本学の職員以外の者により検証を行うものとする」と規定し実行されている。

改革・改善のシステムの実施委員会は、教職員の全役職者を網羅しており組織的に実施できる体制が整えられている。また結果については各学科の FD 活動に反映され、研修会、教育ワークショップ等において教育研究の見直し、充実に向けた議論が展開され、成果は教育の改組等の実績となっているなど改革・改善のための体制は構築されている。

自己点検・評価は、4 年ごとに実施され結果を「中村学園大学短期大学部 教育と研究」に公表し、平成 19 年度からは本協会の第三者評価の内容に準拠した形式に改定され、文部科学省をはじめ高等教育関係団体及び学園関係者に配布されている。

相互評価についても学長を委員長とする組織編成が計画されるなど、取り組みにも努力している。